

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	可児市	学校名	可児市立東明小学校			
校長名	山口 彰	対象学年	全学年	人数	265人	
活動名	「美濃桃山陶の聖地」に生きる 笑顔と感謝を育む双方向のふるさと教育		時間数	低：10 中：70時間 高学年：70時間	継続年数	23年
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [マリーゴールド、サルビア等の栽培と贈呈] ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [故荒川豊蔵 豊蔵資料館・窯跡] ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [志野焼き、野焼き、茶の湯（全校）] ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [米、豆・豆腐、サツマイモ、五平餅] ⑤ 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 [お茶会、陶芸展、感謝の会、福寿苑訪問] ⑥ その他（文化交流、公民館、郷土歴史館等） [「笑顔の花瓶」贈呈、出張作品展、荒川豊蔵資料館]					
複数年継続するための工夫改善 H29の重点活動	○毎年、年間指導計画を必ず改善して無理なく効果的に教育課程に体験的活動を位置付ける。 ○複数名のふるさと教育主任を設けて地域人材や関連施設等との連携の一層の充実を図る。 ◎ふるさとに学び、ふるさとに笑顔と感謝の心を育む双方向のふるさと教育に向け全員が共通実践する。 ☆「笑顔の自主公表会」を開催して、ふるさと教育と校内研究の成果(学力向上)を広く発信する。 ☆市行政や地域社会との一層の連携を図り、東明小ならではのふるさと教育のよさを発信する。					
<p>1 ねらい：校区の特徴である陶芸とお茶を軸に地域に暮らす様々な人々との関わりを深めながら、地域の歴史・伝統文化を学び、生まれ育ったふるさとへの感謝（誇り）と笑顔（愛着）を育む。</p> <p>2 活動の概要</p> <p>○全学年の教育課程に計画的に陶芸と茶の湯に関わる体験学習を位置付け、地域の陶芸家や茶道家、ボランティアの指導の下、6年間を通じた地域ぐるみのふるさと教育を全校態勢で積極的に推進する。陶芸では1年生が抹茶茶碗の絵付け「マイ茶碗」、2年生が手捻りの「お皿」、3年生が野焼きの「シーサー」、4年生が志野焼きの「器」、5年生が2色粘土の「お皿」、6年生が「花瓶」と発達段階に応じた題材と手法で取り組む。また3年生は茶の湯、4年生は志野焼きの歴史や文化等について「美濃桃山陶の聖地」の伝統文化を総合学習で学びを深める。更に興味関心の高い児童は本校ならではの「茶道クラブ」や「陶芸クラブ」で更なる体験と学習を通して主体的に学び続ける。</p> <p>○1年生時に絵付けした「マイ茶碗」で毎年「全校お茶会」を開催し、お手前の作法から「お茶の心」を学ぶ。低学年は高学年からお茶を点てもらい中学年は互いにお茶を点て合う等、異学年でも交流する。また日頃世話になった地域の方々を招いてお茶でもてなす。更に公民館講座で茶道を学んだり、公民館祭ボランティアとして茶席を担当したりする等、学校内外で多様な活動に参加貢献する。</p> <p>◎10月末、校内研究（算数）とふるさと教育を柱に「東明小笑顔の自主公表会」を開催した。管内の学力向上推進教師を始めとする100名を超える参加者を迎え、地域ぐるみのふるさと教育の実践が、心豊かな学校風土を醸成し学力向上の基盤を形成しているとの高い評価を得ることができた。</p> <p>3 保護者・地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</p> <p>○秋には全校児童や教職員・保護者で「陶芸展」を開催したり、お世話になった方々をお茶会でもてなしたりする。更に支援隊(70名)を招いた「感謝の会」では収穫した餅米作った五平餅でもてなす。</p> <p>○公民館祭りには、茶道クラブの児童が「茶席スタッフ」となり地域の一員として祭りに活気を生み出す。</p> <p>○6年生が「卒業親子茶会」を年末に開催し茶の湯を介し親子の絆を深め合う姿は実に感動的である。</p> <p>○地域の施設に6年生手作り花瓶「笑顔の花瓶」を、また校区2公民館に福祉委員会が丹精込めて育てたプランターの花を贈呈した。公民館をお借りしての「出張！子供陶芸展」開催、ふるさとの恩人である高齢者の方々との「福寿苑ふれあい交流会」の開催等、地域に笑顔と感謝の心を届けた。</p> <p>◎市観光交流課とコラボした「荒川豊蔵資料館『随縁に集う』」では、児童の作品が居宅に初めて展示紹介された。「美濃桃山陶の聖地」の学校として、ふるさとの伝統文化への関心が一層高まった。</p> <p>4 活動による児童の姿容（伸長・成長等）</p> <p>○「学校の誇りは『陶芸とお茶！』『みんななかよし』」と、笑顔で話す子供の姿から20年以上に渡る地域ぐるみのふるさと教育は、ふるさとへの確かな愛着と誇りを抱かせ、ここに暮らす様々な人々への感謝の心を着実に育んでいる。9割近い子供たちが「地域の行事に参加している」と答える程、子供にとってふるさとは魅力溢れる生活の場であると共に、自他の社会性（思いやりや規範意識等）を育む確かな成長の場でもある。本校の地域ぐるみのふるさと教育は、男女や学年、障がいの有無を越えた温かい学校風土を醸成し、可児市がめざす「笑顔の学校」への基盤となっている。</p>						

